第６学年国語科学習指導案

日　時　令和６年10月30日（水）第５校時
場　所　６年３組教室
指導者　教諭　釘本　拓弥

１　単元名　表現に着目して読み、考えたことを伝え合おう

２　単元について

⑴教材観

本単元は、学習指導要領における［思考力、判断力、表現力等］の［Ｃ読むこと］（１）エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」に基づいて指導を行う。本教材は、転校生として、「ひろしま」に引っ越してきた亮を中心人物として、三人称視点で描かれている。亮は、原爆ドームは知っているものの、原子爆弾が投下される前、そこがどのような場所だったのかを全く知らなかった。そんな亮が、「模型のまち」作りと、「ビー玉」を通して、そこにかつて「まち」があり、そこで子どもたちが暮らし、遊んでいたことを知る。そして、まちの子どもたちが原子爆弾や戦争によっていなくなったのだということをはっきりと理解し、「ぼくはずっと覚えてる。」と心のうちに思うのである。「模型のまち」や「ビー玉」についての表現に着目して読むことを通して、亮の気持ちの変化に着目させたい。

⑵児童観

本校では、全国学力状況調査において、全国平均は上回っている。ただし、「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」を問う設問については、正答率が全国平均とほぼ同じである。

児童はこれまで、登場人物の心情や人物どうしの関係を捉えたり、物語における表現の工夫について考えをまとめたりする学習に取り組んできた。

話し合い活動については、自分の考えを友だちに伝えることができる児童が増えてきた。ただし、考えの根拠を示しながら説明できる児童は少ない。また、相手の説明を理解したり納得したりしていないのに、聞き返したり質問したりするなど、お互いの意見を一方的に述べるだけの活動となっており、学びが深まる話し合いには達していない。

⑶指導観

本単元では、表現に着目して読み、考えたことを伝え合うという言語活動を設定する。その中で、今回は、表現の効果について焦点化されていくために、「亮」に起こった変化やその理由について、「ビー玉」や「模型のまち」についての叙述を基に考えさせていくことが重要となる。

言語活動としては、「表現の効果」に着目させながら自分の考えをまとめる紹介文を書く機会を設定する。教材文の表現を根拠に説明するなど、これまでの学習の積み重ねを生かしたい。また、児童の考えが広がることの実感やそのよさを自覚できるようにしていきたい。

ワークシートに書き込む「一人読み」と「クラス全体での話し合い」の間に少人数になって自分の考えを伝える時間を作る。このグループ対話を通して、全員が自分の考えを実際に「話す」という活動が保証される。言葉を選びながら、自分の考えを伝えることで自身の思考を深めることにもつながる。

本単元では、情景や心情を描いた表現に着目して読み、物語を読んで考えたことを伝え合う学習の中で、表現の効果を捉える力を身に付けさせたい。

本単元では、佐賀市の実態からこのことをターゲットとして、指導を行っていく。

３　単元の目標

情景や心情を描いた表現に着目して読み、物語を読んで考えたことを伝え合うことができる。

４　単元の評価規準

・物語に描かれた表現に工夫について気付いている。　【知識･技能】
・「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。　【思考・判断・表現】
・進んで表現の効果を捉えながら物語を読み、学習の見通しを持って読んで考えたことを伝え合おうとしている。　【主体的に学習に取り組む態度】

５　単元計画（全６時間　本時５/６）

次	時	主な学習内容（◎）	指導上の留意点（○）と主な評価規準〈◆〉【観点】
一	1	◎既習事項を確かめ、単元の学習の見通しをもつ。 ◎初発の感想を書く。	○単元のゴールとして、模型のまちの魅力大辞典を作ることを伝え、目的意識を持たせる。 ○学習課題につなげるために、難しい言葉の意味を確認しながら、初めて思ったこと、疑問に思ったこと、印象に残った場面や言葉、考えたことなど、物語を読んでの感想を書かせる。
		【学習課題】　６年３組の「模型のまち」の魅力大辞典を作ろう。	
	2	◎「時」に着目して、物語の構成を捉える。	○当時の広島の写真を提示し、場面の様子について想像させる。 ○一行空きの所を見つけて全体を８場面に分けさせる。 ○場面をグループ分けすることで「時」に着目させるために、場面を小さな題と結びつける。 ○ポケットのビー玉（１場面と８場面）、転校前（２場面）転校後（３場面～７場面）の３つに分かれる構成をつかむ。
二	3	◎「模型のまち」の構成を捉え、登場人物を確かめる。	○中心人物である亮、そして真由、圭太、亮の母、かっちゃん、指導員のおじさん、ひいじいちゃんの関係を人物関係図にまとめさせる。 ○亮と真由の性格から二人の関係性をつかませる。
	4	◎表現の効果について考える。	○亮の心情に関わる重要な役割を持つものとして、物語の中で複数の場面で出てくる「ビー玉」と「模型のまち」に着目させ、それらに関わる表現をまとめさせる。 ○暗示的な表現や心を動かす表現を挙げさせ、どのような効果があると考えるかをまとめさせる。 ○表現の効果について考えることが、人物の変化を捉えることにつながることを押さえ、次時で紹介したい文を決めさせる。
	5（本時）	◎物語を読んで、感じたことや考えたことを伝え合う。	○心に残った文章や表現を選び、条件を指定し、その理由をタブレットを使ってまとめさせる。 ○理由をしっかり書かせるために、本文の記述については、できるだけ短く抜き出させる。 ○物語を読み、自分の考え方にどのような変化が起きたのかを振り返らせて発表させる。 ○情景描写でも表現の効果があることに気付かせるために、最後の一文「原爆ドームの向こうは、雲ひとつもない青空。このまちに、また夏が来る」の表現の効果について話し合わせる。
三	6	◎表現の工夫について話し合い、単元の学習を振り返る。	○なぜ、亮の気持ちが変化したのか考えさせることで、表現の効果の大切さに気付かせる。 ○なぜ、「模型のまち」という題名にしたのか考えさせる。 ○どのような表現の工夫を見つけ、そこからどのようなことを考えたのかを振り返らせる。

５　本時（５/６）

(1)目標　「模型のまち」を読み、模型のまちの魅力大辞典を完成させるために、自分の考えを伝える紹介文を書いて、感じたことや考えたことを伝え合うことができる。

(2)展開

学習活動	教師の働きかけと評価
１　本時のめあてを確かめる。	○本時では、物語を読んで感じたことや考えたことを伝え合うことを確かめる。
めあて　６年３組の模型のまちの魅力大辞典を完成させよう。	
２　心に残った文章や表現を選び、その理由とともにタブレットにまとめる。	○作品中、最も心に残った文章や表現はどこか、それはなぜかを問いかけ、考えをまとめさせる。 ○出来事や事件を起点とした展開ではなく、表現に着目させるなど、条件を提示してまとめさせる。 **①心に残った文章や表現をいれる** **②その理由を200字程度でまとめる**
３　自分で書いた紹介文をグループで紹介し合う。 《予想される児童の考え》 ・私が、心に残った表現は、「ポケットの中の五つのビー玉は、あのとき五人で遊んだラムネッチンの記念」である。その理由として、二点あげられる。一点目は、最初の文と重ねたことで、このビー玉がより亮の気持ちを大きく変化させたことが分かる。二点目は、五人で遊んだラムネッチンの記念ということで、「記念」という言葉を使うことで、それだけ広島の町に対して、自分事として捉えるようになったからである。	○対話的な活動を通して、自分の考えをより深めさせるようにする。【研究の視点①】 ○物語を読み、児童自身の考え方にどのような変化が起きたのかを振り返らせて発表させる。 ○それぞれの意見を聞き合う中で、さらに考えが深まるように促す。 ＜評価＞（思考・判断・表現） Ｂ条件をもとに、紹介文を書くことができる。 ●心に残った文章や表現を明確にしながらその表現があるなしでの違いについて問いかけ、口頭で答えさせるようにする。
４　最後の一文「原爆ドームの向こうは、雲ひとつもない青空。このまちに、また夏が来る」の表現の効果について話し合う。 《予想される児童の考え》 ・「雲ひとつない青空」という表現から、戦争がない平和な生活ができていることを表現している。 ・「また夏が来る」という表現から、この街にとって夏の時期の大切さについて短く表している。 ・原爆ドームと重ねることで、戦争で被害を受けた歴史がまだのこっていることを表している。	○「色彩表現」や「情景描写」にも注目させ、それが亮の変化を示していることに気付かせる。 ○心に残った文章や表現を選び、その理由を考えることを通して、自分の中で起きた変化を意識できることを伝える。 ○それぞれの意見を共有することで、考えが広がることのよさを意識させる。
５　本時の学習を振り返る。	○「過去（これまで）、現在（今）、未来（これから）」で振り返りを書かせる。 ○「表現」という言葉を使わせて、まとめさせる。